

第5回木曽川水系流域委員会 議事要旨

日 時：平成 19 年 8 月 6 日（月）13:30～17:30

場 所：名古屋国際ホテル 2 階 老松・若竹の間

1．開会

2．挨拶（中部地方整備局河川部長）

3．委員長挨拶

4．議事

(1) 第4回木曽川水系流域委員会議事要旨の確認

「第4回木曽川水系流域委員会の議事要旨（案）」については、内容の確認のうえ了承されました。

(2) 木曽川水系の現状と課題（流水管理・水利用）

主に次のような意見をいただきました。

- ・ 流出率が 80%から 90%とは高く、蒸発がほとんどない。一般的には蒸発散、河川、地下水がそれぞれ 1/3 程度と言われている。
- ・ 新聞報道によると、長良川河口堰の水を背割堤から抜くことになっていたが、河口堰建設時にはもともと堰の直上流からの取水となっていたはず。背割堤から抜くとなると水質や環境にも影響すると思われるため議論が必要。
- ・ 上流部における取水が川に戻る量、戻らない量を整理してほしい。
- ・ 長良川と揖斐川の流出率についても用水の還元量が関係しているのであれば違う表現の方がよい。
- ・ かんがい期に、水田からの浸透によって安定した地下水を形成しているが、水田に張った水が地下水として別の用途にも利用されているのではないか。
- ・ 地下水位回復について、昭和 48 年は渇水年であり、この時の地下水は極端な例であり一般的な例としては付近数年の状況を見る必要があるのではないか。
- ・ 利水と地下水との関係では平成 6 年渇水時に広域地盤沈下も発生していることから、渇水により水供給が減少することが地盤沈下にもつながるという視点が必要ではないか。
- ・ 木曽川流域では協力関係の中で慣行水利権みたいなものも尊重しながらやってきた良い歴史がある。また、少雨化傾向により、水の安定供給が難しくなっているのが現実であり、ハードの施設を総合的に運用をしようとしても、ぎりぎりの状況になっている。水のリスク管理（リスクマネジメント）との関係を明確にして議論しなければならない。
- ・ 大垣市では地下水の利用が多く、まだまだ地下水は豊富と思うが、地盤沈下が終息したとは思えず、地下水のデータを示してほしい。

(3)木曾川水系の現状と課題（環境等）

主に次のような意見をいただきました。

- ・ 伊勢湾内の回転率及びそのうち木曾三川が占める割合はどのくらいになるか。

(4)木曾川水系の現状と課題（総括）

全体総括として、主に次のような意見をいただきました。

- ・ 次回の流域委員会では、現状と課題を治水、利水、環境、維持管理を体系的にまとめ、その現状と課題がどのような整備メニューに結びつくのかを示すこと。

(5) ふれあい懇談会

主に次のような意見をいただきました。

- ・ ふれあい懇談会や行政への意見聴取等の結果を、流域委員会の議論の場に反映できるようにする。また、どのように反映されたのか、発言者などに分かるようする。

(6) その他

- ・ 第69回、第72回河川整備基本方針検討小委員会の報告
- ・ 今後の予定

5 . 閉会